



千貫の松伝承

佐藤 一郎

問 駿府政事録によると松平陸奥守政宗公（政宗公）は大御所徳川家康公に献上する初タラを獲るように2人の藩士に命じたが、海岸の漁師が今日は、潮の色が異常で、不気味だから船は出せない。1人の漁師は殿様の命だからと海へ出たが、盛り上がる大波（津波）に遭遇し、千貫山の麓の松に流されたという千貫の松伝承が記載されている。この記録をどのように認識しているか伺う。

教育長 当時の阿武隈川は今と違い、吹上のあたりを通過していました。津波が行く可能性はあるだろうということですが、今、記録の関係では津波の痕跡が高瀬遺跡から西のほうではまだ見つかっていません。あくまでも伝承として、言い伝えとして押さえておきたいと思います。

慶長津波の言葉が世界に

問 当時の東北大学博士の蝦名裕一氏が発表した慶長の津波、千貫の松の伝承を、平成25年に開催された防災講演会で、当時の東北大

学教授の平川新氏が講演した。また、東京大学地震研究所の都司嘉宣助教も、慶長の津波は駿府記より津波という言葉が地震により引き起こされ定着してきたと発表した。これらから津波という言葉が世界に発信されたと思うがどうか。

教育長 実際は、1524年に津波の語が出ていますし、1454年の王代記にも出ています。「津波」がクローズアップされたのは、政宗のこの時代かなと思います。被害を受けた漁師が当然のことと思いますし、これが世界に広まるきっかけになったと思います。

問 駿府政事録と貞山公治家記録の千貫の松伝承についてどのように伝えたいと思うか伺う。

市長 あくまでも伝承という域の中の話で、実教材に挙げるまではまだ時間を要します。もう少し検証が必要だと思います。これは一つの考え方として参考になるのではないか、使える部分はあるだけ使う方向で進めたいと思います。



災害への対応

佐藤 剛太

問 災害に備えて毎年総合防災訓練を行っている。避難指示が発令された台風21号に対して防災訓練が生かされた点と今後の課題を伺う。

総務部長 生かされた点は、土砂災害に警戒が必要な町内会長へ事前に台風情報の連絡ができたこと、またJアラートと連動した防災行政無線拡声子局と防災ラジオ、緊急エリアメール、エフエム岩沼などの複数の手段によって適正なタイミングでの情報発信ができたこと、そして指定避難所の開設をスムーズに行うことができた。課題は、今回は避難勧告を発令しましたが、市が発令する情報では、避難準備情報、高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示などがあります。しかし、これらの情報が正しく市民の皆さんに受け止められなかったと思います。発令する場合、情報が正しく受け止められたかどうかの確認をしっかり行い、今後、PRなどの広報を行っていく必要があります。

問 防災アプリで市内道路の冠水

情報などリアルタイムの情報を発信することが必要ではないか。防災課長 せっかくの防災アプリですので、今後、災害時にどのような活用ができるのか検討、研究していきます。

西部地区の防災拠点を！

問 西部地区の防災拠点を今後、どのように進めていくのか伺う。

政策企画課長 西部地区における地域防災コミュニティの拠点機能を持つ施設の整備を検討しています。

問 どのように検討しているのか。政策企画課長 現在建設予定地の選定を行っています。

問 どのような場所を検討しているのか。

市長 西部地区は今後も土砂災害危険区域が増える前提がありますので、いざというときを意識しながら指示しており、できるだけ早く場所を提示して議論したいと思っています。

◎その他の一般質問

・若い世代の投票率低下